「の」の字の世界

佐藤春夫

青空文庫

うたちゃんは、三人兄弟の末で、来年からは幼稚園へ行こうというのですが、早くから、自分ではお姉ちゃん気どりで「えいちゃん」「えいちゃん」と、自分をよんでいます。「えいちゃん」とは、ねえちゃんのかたことなのです。

うたちゃんは、「えいちゃん」だけに、二つ上のなき虫の兄がなくと、すぐ手ぬぐいを持って行って、なみだをふいてやったり、頭をさすったり、まことによく気のつく、りこうな子なのです。それだのに、どうしても字をおぼえません。なき虫の兄さんの方は、うたちゃんの年ごろには、だれも少しも教えないのに、野球かるたで、平がなはすっかり読み書きをおぼえ、それからは、すもうの名まえといっしょに、その本字までたくさんおぼえていたものです。兄弟でも、これほどちがうものか。うたちゃんも、今にはひとりでおぼえるだろう、といっていても、なかなかそのけぶりもありません。うたちゃんは、え本でもなんでも、あけてみてはすぐおもしろいお話をこしらえて、みなひとりで読んでしまうのです。これでは、まるで字の必要もないわけなのだ、と気がつきました。それにしても、自分の名まえぐらい書けないではようち園でもこまるだろう。

ちょっとためしに、名まえの三字だけでもおぼえさせて見よう、と「う」の字から教えはじめたが、やっぱりだめなのです。二、三日かゝって、やっと読み方はおぼえたが、書くことはどうしてもだめなので、あきらめて「の」の字を教えはじめました。「う」の字の下を「の」のように書くのに気がついたからです。「の」の字を、はじめはまるい字とよんで、これを読むことはすぐおぼえましたが、書くのは、逆の方向にまげたり、しっぽの方から頭へもって行ったり、どうしてもだめでしたが、三日ほどしたら、どうやらそれらしい字ができはじめました。書きはじめても、読み方をわすれてはいけない、と書くけいこをさせながらも、え本や学校の本などを出してきて、うたちゃんに「の」の字をさがし出させているうちに、兄さんの野球の雑誌からも、お父さんの新聞のうしろからも、うたちゃんは「の」の字さえ見れば、きっとひろい出すようになり、書くこともだんだん上手になりました。

うたちゃんの世界は、今や「の」の字の世界になりました。新聞には、大きいのや小さいのや「の」の字はどっさり。うたちゃんには、新聞も「の」の字ばかりです。お兄さんのまわすコマが、「の」の字を書いているし、コマのヒモも、おえんがわで「の」の字になっています。お庭のカタツムリは「の」の字をしょって歩いているし、うたちゃんの夜具のカラクサもようも、あちらむきやこちらむきの「の」の字が一ぱいです。お兄さんの頭の上に、だれか「の」の字を書いているというのを見ると、つむじのことなのです。お庭に「の」の字が生きて動いていた、というので、ついて行って見ると、ミミズがいたので、みんなでわらいました。

みんながわらったので、うたちゃんは、ひどくしょげてしまったので、わたしは

『ほんとうに「の」の字が生きて、ねんねしていたね』

と、うたちゃんを、なぐさめてやってからいいました。

『うたちゃん、字は「の」の字のほかにもまだたくさんあるのです。うたちゃんの「う」の字でも、「た」の字でも、ね。みんなおぼえますか』

うたちゃんは、大きくうなずいた。うたちゃんは、一字おぼえて

自信ができ、おもしろくなったのでしょう。うたちゃんは、今に字をみなおぼえて、世界中を読むでしょう、きっと。

青空文庫情報

底本：「定本　佐藤春夫全集　第24巻」臨川書店
　　2000（平成12）年2月10日初版発行
底本の親本：「読売新聞　夕刊」
　　1953（昭和28）年10月24日発行
初出：「読売新聞　夕刊」
　　1953（昭和28）年10月24日発行
入力：焼野
校正：菜夏
2017年9月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

「の」の字の世界

佐藤春夫

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/